

トビウオ通信 (1月号)

(TEL 0855-22-1720)

《平成 10 年度まき網漁業の動向》

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

今月は、島根県西部海域を漁場とする中型まき網漁業の昨年の動向についてお知らせします。

総漁獲量・金額

浜田市漁協所属の中型まき網による浮魚類の漁獲量とC P U E (1 日 1 統あたり漁獲量) の変動を図 1 に示します。

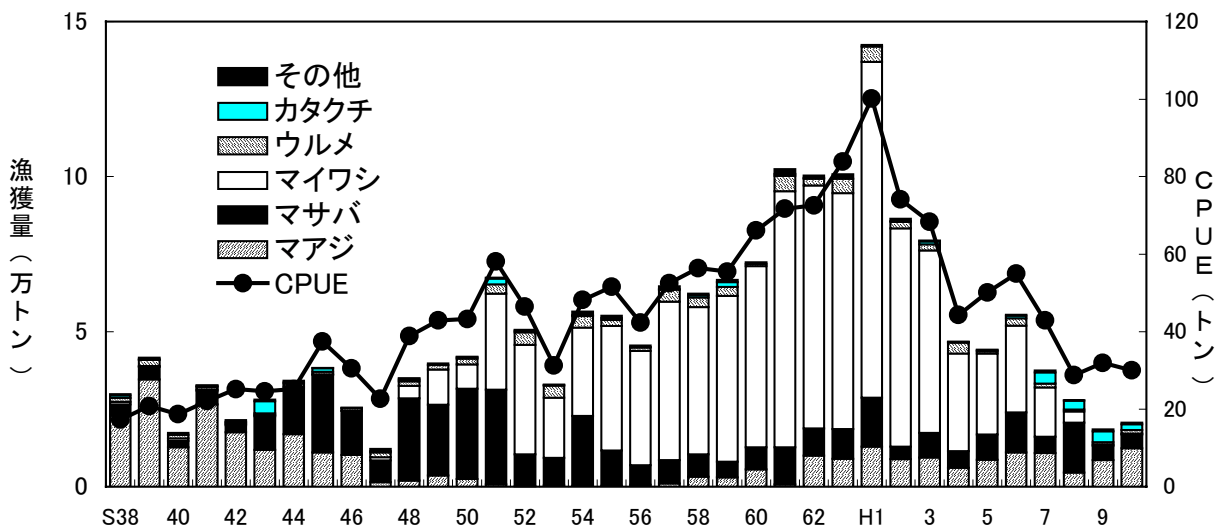


図1 浜田港所属の中型まき網船による魚種別漁獲量とCPUEの推移

浮魚類の漁獲量は、マイワシの減少に比例するように、平成元年をピークに減少傾向にあります。平成 10 年の総漁獲量は 20,624 トンで前年の 112%、平年 (過去 10 ヶ年平均) の 32% となり過去 20 年間で最低だった昨年をやや上回ったものの、依然として低水準となっています。

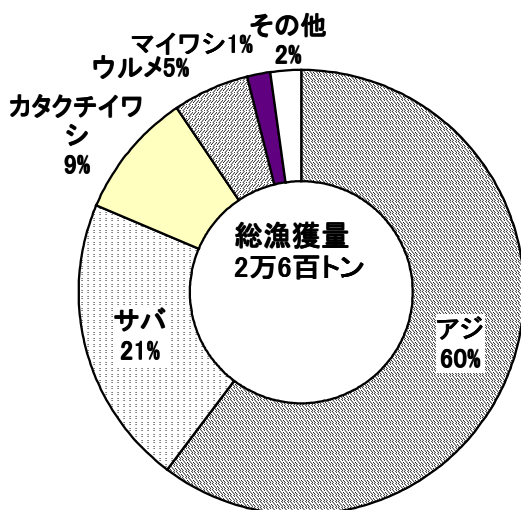


図2 平成10年浜田市漁協所属の中型まき網による総漁獲量と魚種別割合

平成 10 年は 4 ヶ統の中型まき網船が稼動しており、前年のような深刻な状況 (7 ヶ統から 4 ヶ統に減少) にはなりません。魚種別の漁獲量 (図 2) を見ると、マアジがトップで 60%、次いでマサバが 2 位で 21%、カタクチイワシが 3 位で 9% となり、この 3 魚種で全体の 90% を占めました。

総漁獲金額は約13億3千万円で前年をやや上回りました。魚種別の漁獲金額を見ると、マアジがトップで62%、次いでマサバが2位で18%、カタクチイワシが3位で5%となり、漁獲量とほぼ同じような割合となりました。(図3)

魚種別・月別の漁獲量

次に魚種毎の月別漁獲量の変化を示します(図4)。比較的好調であった魚種は、マアジとカタクチイワシでした。マアジは前年の秋漁の好調さを持続し、春から夏にかけて平年を大きく上回る漁があり、秋の漁は前年を下回ったものの年間では平年を38%上回る漁獲となりました。カタクチイワシは3月に大きなピークがあり、前年の漁獲量を上回ったものの、秋の漁はまったくの不漁に終わりました。年間では前年の62%、平年の149%と比較的好調でした。マサバは春漁が昨年を下回り、秋漁は平年並みで、年間では平年の49%にとどまりました。マイワシは依然として減少傾向が続いており、平年の1%、前年の10%と回復の兆しは見られていません。ウルメイワシは夏漁が振るわず、平年の51%、前年の212%と前年を上回ったものの、低水準となっています。

今後の予測

好調が続いているマアジですが、対馬暖流域におけるマアジ資源は高水準で横這い状態にあると考えられており、地域によって漁獲に差はあるものの、それほど大きな変動はないと思われます。浜田の中型まき網で漁獲されるマアジの漁獲量は、平成8年以降増加を続けており、山陰西部沿岸がマアジの好漁場になっているようです。カタクチイワシは大きな変動がなく横這い状態が継続すると思われます。マサバは、漁獲量の変動が激しく予想がしにくいのですが、昨年の秋に25~30cmのサイズを中心にやや活発な漁がみられ、この群れが今年になっても継続して獲れているため、海洋環境などの条件が整えば、さらに活発な漁場形成がなされる可能性があります。

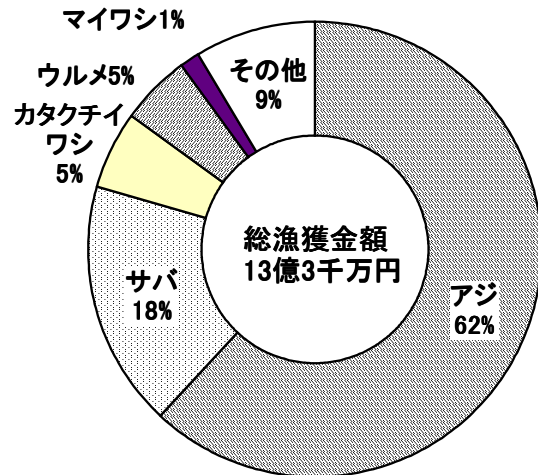


図3 平成10年浜田市漁協所属の中型まき網による総漁獲金額と魚種別割合

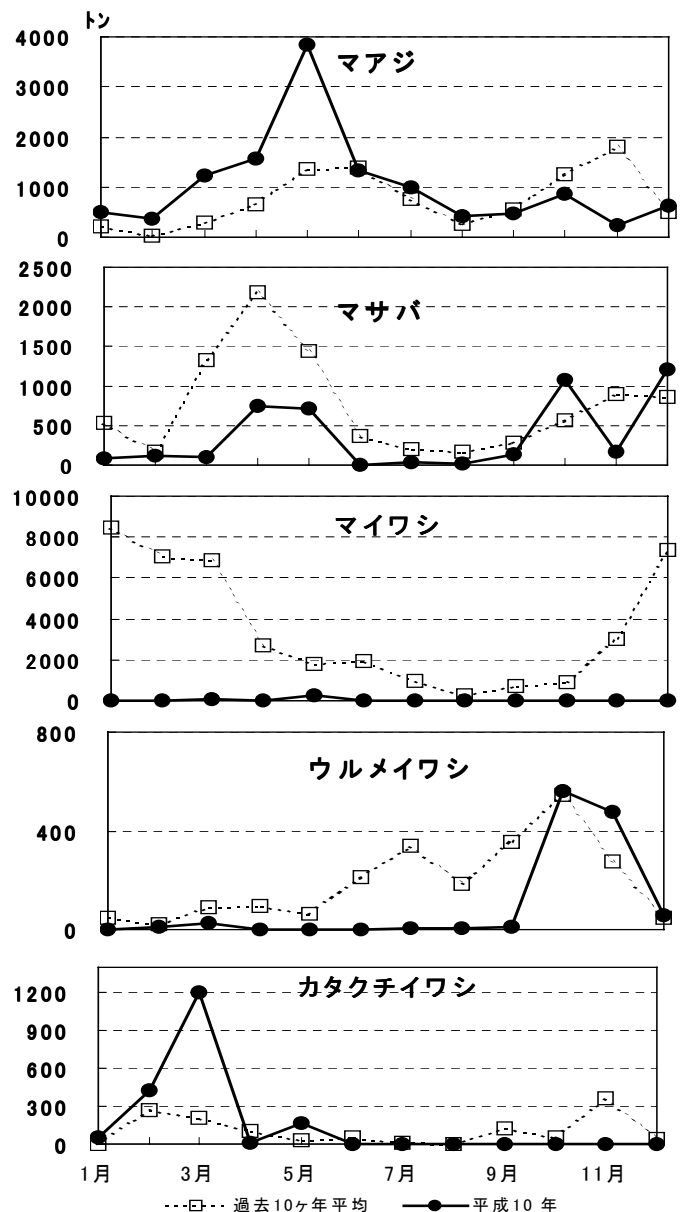
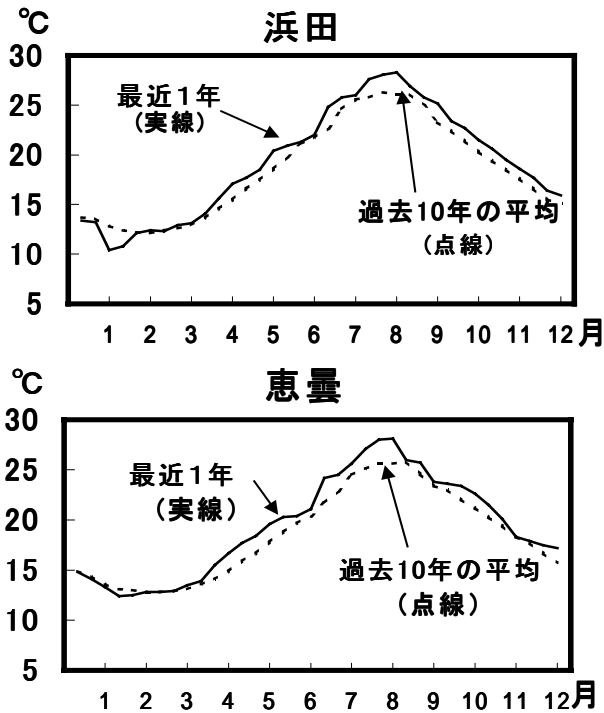


図4 魚種別漁獲量の変化

《12月の海況》



定地水温

12月	月平均	平年差	評価
浜田	16.7	+0.9	やや高め
恵曇	17.5	+0.8	やや高め

定地水温は浜田、恵曇ともにやや高めとなりました。前月から浜田で約2.9、恵曇で約2.5 下降しています。

漁業情報サービスセンターからの情報によると、昨年末から今月上旬にかけての島根県沿岸海域の表面水温は14~18 であり、前年末から約1 下降しています。また、平年値と比べると3~4 高く、依然として平年より高い状態が続いています。

《12月の漁況》

【中型まき網漁業】

浜田港の中型まき網の総漁獲量は、2,040 トンで前年の76%、平年の23%と低調に推移しましたが、単価が高い大型のマアジが主体であったため水揚金額は前年の184%と好調に推移しました。漁獲の主体はマサバ・マアジでした。また、恵曇のまき網でも、総漁獲量は556.3 トンで前年の124%と好調に推移しており、マアジ、マサバが主体となっていました。浦郷ではマサバ、マアジを主体に2,414 トンの漁獲があり、前年の260%とこちらも好調でした。

【イカ釣漁業】

浜田の地元小型イカ釣り船によるスルメイカ・ケンサキイカの漁獲箱数は475 箱で、前年同期の24%と大きく減少しました。これは、スルメイカ及びケンサキイカの漁場が島根県西部海域に形成されなかったことが大きな要因と考えられます。一方、西郷港における沿岸の小型イカ釣りによる漁獲量は、スルメイカ、ソデイカを中心に約43 トンの漁獲がありました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は371 トン、水揚金額は1億6,200 万円でした。また1 統当たり漁獲量は61.8 トン、水揚金額は2,700 万円であり、量・金額とも平年を上回りました。しかし前年同月と比較すると、量は1.6 倍でしたが、金額は前年並みでした。秋以降、小型のキダイ、ニギスはまとまった漁が見られますが、主要種であるムシガレイ、ソウハチ(平年比:60%)、ヤリイカ(平年比:13%)が不調でした。

恵曇港の総漁獲量は244 トン、水揚金額は1億1,600 万円です。量は平年を30%上回りましたが、金額は平年をわずかに下回りました。ウマヅラハギ、ケンサキイカ、ヤナギムシガレイは4.2~2.8 倍の漁獲があり、平年を大幅に上回っていますが、ソウハチ、ニギス、アナゴ(平年比:37%)は低調に推移しています。

【小型底びき網漁業】

和江漁協における1日1隻当たり漁獲量は620kg、水揚げ金額は33万円で量・金額とも前年を上回りました。特にヤリイカは前年の19倍の水揚げがあり、アンコウ、キダイ、ニギスも前年(2.9~2.3倍)を大きく上回り、まとまった漁が見られました。

大田市漁協における1日1隻当たり漁獲量は546kg、水揚げ金額は31万円で量は前年を上回りましたが、金額が前年をわずかに下回りました。ソウハチ(前年1.3倍)、ヤリイカ(前年3.7倍)は前年を大きく上回りました。また、ハタハタ、アカガレイといった冷水性の魚種も少しずつ獲れ始めました。

両港とも、ヤリイカの漁獲量は順調に増加してきており、盛漁期を迎える今後の漁が期待されます。

【定置網漁業】

各地とも水揚げ日数が減少したこともあり、漁獲量、水揚金額とも前月の半分程度まで落ち込んでいます。ブリの漁獲量は、前月の隠岐地区に続いて東部でも激減し、西部のみ好漁が続いています。ソデイカの漁獲量も前月に比較するとかなり減少しましたが依然として県下全域で漁獲が続きました。マアジの漁獲量は、隠岐地区を除いて激減しました。

【釣・縄】

沿岸域は平年より高い水温が続いており、この時期、例年ならほとんど漁獲されなくなるヨコワ(クロマグロ)やヒラ(ヒラマサ)が漁獲され、比較的好調な漁模様となっています。

浜田はヨコワ・ヒラマサ・ケンサキイカ・アマダイ主体の漁で、漁獲量は31.0トン、水揚げ金額は4,627万円でした。これにより、不漁だった前月を大きく上回り、量で2倍、金額で約3倍となり、ほぼ平年並みの水準に戻りました。五十猛はヨコワ・ヒラマサを中心に35.9トン、2,109万円の水揚げで、量・金額ともに前年及び平年の約2倍と豊漁になりました。

漁獲統計

平成 10年12月1日~31日

漁業種類	水揚港	延隻数 ・統数	主要魚種	1隻(統)1航 海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	54	マサバ・マアジ	38ト	2,041ト
	恵曇	27	マアジ・マサバ	21ト	556ト
	浦郷	48	マアジ・マサバ	45ト	2,143ト
イカ釣り	浜田(沖合)	83	スルメイカ・ケンサキイカ	45箱	3,717箱
	浜田(沿岸)	82	ケンサキイカ	6箱	475箱
	西郷	171	スルメイカ・ソデイカ	250kg	42.8トン
沖底	浜田	28	キダイ・ニギス	13.2ト	370.9ト
	恵曇	38	ウマズラハギ・キダイ	6.4ト	244.2ト
小底	和江	467	ヤリイカ・アンコウ・キダイ	620Kg	289.5ト
	大田市	266	ソウハチ・ニギス	546Kg	145.1ト
定置網	浜田	47	ブリ・ソデイカ	279kg	13.1ト
	恵曇	17	カワハギ類・カツオ類	402kg	6.8ト
	浦郷	21	マアジ・カツオ類・スルメイカ	455kg	10.0ト
釣・縄	浜田		ヨコワ・ヒラマサ・ケンサキイカ		31.0ト
	五十猛	502	ヨコワ・ヒラマサ	71.5 Kg	35.9ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量/延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。